

「維新」政治

②

Q&A どうしみる

Q 大阪の「維新」はどこから生まれ、何を狙っているのか。

ふりかえると前代表の橋下徹氏（元大阪府知事、前大阪市長）が率いた「維新」の台頭は、大阪の自民党・「オール与党政治」の行き詰まりが、どこよりも激しいなかで起こりました。

経済的には、「子どもの貧困」率がいまや全都道府県でワースト2位になるなど、全国最悪の形で「格差と貧困」が広がりました。関西財界がすすめてきた「関西空港・大阪湾ベイエリア開発」が破綻

をとじて大阪経済と地方財政の巨大な「負の遺産」となります。これに代わるプランも示せなくなり、関西経済連合会は「関西経済は絶対的衰退の危機」とまで呼びます（1999年「関西再生シナリオ」）。

政治的には、自民党、民主党（当時）の支持基盤が崩れた大阪で、日本共産党を除く「オール与党」がどこよりも早く生まれました。しかし、府民との矛盾は消えず、20

ルーツと狙い

行き詰まり大阪市解体へ

07年大阪市長選、08年府知事選では、従来の「オール与党」の枠組みではたたかえなくなっていました。

この08年府知事選で登場してきたのが、自民・公明が推薦した橋下徹氏でした。茶髪の若手弁護士として民放テレビ番組に出演していた知名度と「大阪府職員は破産会社の職員」などの物言いで注目を集めました。彼が志向したのは、大阪の行き詰まりを「右から改革」することでした。

その姿が明確になるのが10年4月の「大阪維新の会」結成です。「大阪府庁の旧WTC（ワールド・トレード・センタービル）への移転」という提案をし、議会で否決されたものの、この案件への賛否を賛草に、自民党のなかに手をつっこみ、知事が代表となる地域政党をつくりあげます。

「大阪都」構想について訴える橋下徹大阪市長（当時）と松井一郎大阪府知事（左）



「大阪都」構想について訴える橋下徹大阪市長（当時）と松井一郎大阪府知事（左）
2015年5月、大阪市

そこでかかげた一枚看板が「大阪都」構想でした。大阪府をつぶし、その権限と財源を「大阪府」に吸い上げ、「一人の指揮官」でやりたい放題の「統治機構」をつくること企図したものでした。これと一体に、「なんでも民営化」路線を走り、「教育基本条例案」「職員基本条例案」を打ち出すなど、文字通り従来の「オール与党」政治にもなかった異質で危険な方向をたどります。